

創業以来130余年、大成建設は「人がいきいきとする環境を創造する。」を使命に発展を遂げてきた。その高い理念と技術力を支えるのは多士済々のマンパワー。頼もしい10名の精鋭たちの仕事を5回にわたって紹介する。4回目は、建設会社の枠組みにとらわれない新規事業の開拓と、商業施設などの建築設計で活躍する男女2名が登場。

[大成建設]④ 夢をカタチにする舞台

女性ならではの 細やかな視点で

大成建設本社が入る東京・新宿センタービルの中に「ギャラリー・タイセイ」がある。近代建築の巨匠ル・コルビュジエの創作活動を中心に、随時企画展を行っている無料の展示スペースだ。設計本部の建築グループに在籍する黒田基子氏も、学生時代に度々ここを訪れていた。「まず建設会社がギャラリーをやっていることが新鮮でした。風通しが良さそうな印象を受けましたね」

高校の社会勉強で講師として訪れた設計士の話に興味を持ち、父親の転勤で移り住んだオーストラリアの大学でも建築を専攻。かくして大成建設に入社した黒田氏が担当するのは、商業特殊施

設の意匠設計だ。ホテルなどの商業施設のほか、病院や学校、オフィスビルなど、扱う分野は広範囲にわたる。

「住宅だけを設計したい人もいるでしょうけど、私は公共から個人まで、街にある建物全般に幅広く携わりたいと思っていました。それが実現できているのはラッキーですね」

最近では沖縄の離島に建設したリゾートホテルを担当し、現在は北海道でリゾート型のビジネスホテルを手がけている。現地在場が遠いぶん、綿密なコミュニケーションが重要となる。

「顧客の要望をヒアリングすることから始まって、工事着工後も現地には何度も足を運びます。特にホテルなどは実際に運営されていく過程で、必ず予想外の事態や見直したい部分が出てくるので



様々な建築やインテリアの写真集を見ては、参考にすることも。

すよ。あと注意が必要なのが、特徴のある気候です。沖縄といえば台風だと分かっていても、実際どれほどの状態になるのかは想像もつかない。地元の方々の意見を聞かないと、その土地に対応できないものになってしまうんですね」

ホテルなどの商業施設は女性客をターゲットにする場合が圧倒的に多い。最近では特に女性としての意見が求められることがあるという。

「特徴のある気候や土地柄にあわせて設計をするのと同じだと思うんです。そこに女性ならではの感性を活かして、自分が使うことをイメージしながら仕事ができる。何も無いところにカタチあるものができていくのが建設業の大きな魅力ではありますが、個人的には“最後の仕上げにこんな壁紙を貼りたい”というところまでイメージするのが楽しいんです。どんな業種の職業でも、感性を活かした仕事ができれば面白いと思います」

普段も、気になる建物の仕上げを触って確かめるといふ黒田氏。肩肘張らず、軽やかな姿勢が充実した日々につながっているようだ。



File 008 建築設計

設計本部
商業担当
建築グループ

黒田 基子
Motoko Kuroda

自分の“地図に残る仕事”

入社1年目/初めての実施設計に携わる。自分の描いた図面がカタチになるのを体験する。

入社5年目/入社後初めて、ゼロからプロジェクトを担当する。ジェットコースターに乗っているような気分
の充実した毎日を送る。

現在/北海道のホテルプロジェクトに携わる。

来年ゴールデンウィークのオープンに向けて奮闘中。

ものづくりは人づくり 熱き血潮を次代に繋ぐ

先人が築いた技術と知恵を受け継ぎ、さらなる向上を目指す。伝統ある企業の根幹姿勢に加えて、新しい視点で事業展開をはかることも、時代を生き抜く不可欠な要素だ。その最前線で新事業を軌道に乗せるべく奔走しているのが、エンジニアリング本部の伊藤秀行課長である。「工事の受注から竣工、引き渡しまでが建設会社の基本的役割ですが、それだけでは特化できません。大成建設が持っている技術を活かした事業の企画、資金確保から引き渡し後の運営も含めて、事業全体をコーディネートして提案しています」

温室での野菜水耕栽培や日陰・潮流に強い芝生の開発などのほか、力を注いでいるのが、大阪でプラント建設工事が進むバイオエタノールの製造事業だ。「工事現場の廃棄木材を発酵・蒸留して作るエタノールを、CO₂排出量削減、地球温暖化防止に貢献するバイオマス(生物資源)燃料として実用化する事業です。来年1月に本格稼働予定というところまで、



現在、新規事業に向けて、毎日、社内外を奔走中だ。

File 007 新規事業

エンジニアリング本部
新規事業推進グループ
課長

伊藤 秀行
Hideyuki Itoh



なんとか漕ぎ着けました。東京と大阪を往復する日々で家族にはちょっと負担をかけていますが、開業までは協力してもらって」

入社後ほどなく配属された横浜ランドマークタワーの現場を始め、10年に及ぶ大プロジェクトの北海道の忠別ダムなど、建築・土木の作業所での事務の仕事は十二分に経験している。だが今回の新事業では銀行や官庁との交渉など、これまで縁のなかった業務が押し寄せた。「そういう意味ではまだまだ新人ですよ。今思うとよく乗り切ったと思う場面は多々ありました。でもこれがノウハウになって、今後の事業展開に繋がっていくですよ」

どんな経験も貪欲に吸収して前進するパワフルな伊藤課長だが、実は学生時代は教師志望だったとか。大学も文

学部教育学科。なのに畑違いの建設業界に方向転換したそのワケは、「教員試験に見事落ちた」こともさることながら、「ものづくりに携わりたい」という強い思いがあったからだ。

「人を育てる教育と、人の生活の場に役立つ大きなものをつくる建設とは、創造的な部分で共通している、と採用面接で偉そうに言ひまして(笑)。私自身、実際にこの仕事に就いてみると、自分の考えや信念を具体的に形にできるという点で、やはり非常にやりがいがありますね。最初に抱いた素直な動機を、ずっと大事にしたい。今でも自分に言い聞かせています」

熱い口調で「失敗も含めて自分の体験を後輩に伝えていきたい」と語る伊藤課長。ものづくりの現場で、人づくりも実践中だ。

自分の“地図に残る仕事”

入社2年目/横浜ランドマークタワー新築事業に携わる。入社早々、日本一の高さのビル建設プロジェクトに配属され、規模と仕事の進め方に驚くことばかり。

入社5年目/札幌支店に転勤。日本最大級の忠別ダム工事の立ち上げに従事。10年越しの巨大なダム建設工事で、冬にはマイナス30℃にもなる自然相手の仕事の厳しさを知る。

現在/エンジニアリング本部で事業を推進。大成建設の保有技術をベースに新たなビジネスチャンス。